別紙様式１－５（平成19年度承認計画用）

団体名	北杜市
会計名	下水道事業特別会計

③ 職員数

類型	C

（ｉ）推移表

（単位：名）

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度（平成23年度）	平成21年度計画目標値
計画目標値（A）	15	15	14	14	13	14
実績値（B）	15	15	14	14	*14*	
乖離値（C）（A－B）	0.0	0.0	0.0	0.0	*▲ 1.0*	0.0
乖離率（D）（C／A）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	*-7.7%*	0.0%

（ii）要因分析

計画最終年度における未達成の要因	影響人数（単位：名）					備考	やむを得ない事情
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度		
災害等による影響					1	地震対策等への対応措置のため、職員数削減を1年間延伸	1
合計	－	－	－	－	1		
うち、やむを得ない事情	－	－	－	－	1		

（iii）実績値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

平成23年3月11日発生の東日本大震災を受け、施設に係る地震対策等の検討及び対応措置を図るため、職員数の削減を1年間延ばしたものである。

（iv）改善に向けた取組及び今後の見通し

平成24年度から職員数は、1名減の13名である。また、須玉第1処理区の認可廃止に伴い、平成25年度からの職員数を1名減とすべく職務体制の見直しに着手している。

（v）改善方針の進捗状況

災害というやむを得ない理由により、計画より1年遅れたが、平成24年度から職員数は、1名減の13名としている。

団体名	北杜市
会計名	下水道事業特別会計

類型	C

④ 改善額

（ⅰ）推移表

（単位：百万円）

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	改善額合計	補償金免除額
計画目標値（A）	13	27	42	100	118	300	52
実績値（B）	28	44	57	*55*	*53*	*237*	
乖離値（C） （B－A）	15.0	17.0	15.0	*▲ 45.0*	*▲ 65.0*	*▲ 63.0*	185.0
乖離率（D） （C／A）	115.4%	63.0%	35.7%	*-45.0%*	*-55.1%*	*-21.0%*	355.8%

（ⅱ）要因分析

計画最終年度における未達成の要因	影響額（単位：百万円）						備考	やむを得ない事情
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	合計		
諮問機関の勧告又は指導				43	45	88		12
						－		
						－		
						－		
						－		
合計	－	－	－	43	45	88		
うち、やむを得ない事情	－	－	－	43	45	88		

（ⅲ）実績値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

当事業の財政健全化を進める上においての、最重要課題は下水道料金の統一である。現行の料金体系が合併前の旧町村の14の料金体系を継承しており、使用料金の適正化を図るうえでの障害になっていること。また、同一サービスにもかかわらず地区毎に料金が異なること。これらの解消に向けては、心ある下水道使用者や市民の共通認識であった。

このような共通認識のもと、平成21年4月、市長の諮問機関である「北杜下水道事業審議会」に対し、「北杜市下水道料金の統一について」諮問を行った。当初同審議会では、平成23年4月からの下水道料金統一に向けて精力的に審議したが、同様に料金の統一について先行して審議していた、簡易水道事業審議会において、反対等の意見が予想外に強まり、審議会での審議が出来ない状況となった。簡易水道事業審議会の審議状況等の混乱を踏まえ、下水道事業審議会では、当初予定を一年延長し料金統一による市民及び議会等の受け止め方について詳細に情報収集を行い、審議会での議論を慎重に審議すると共に市民等への情報提供、説明責任を果たすこと及び経過措置が必要とのことから、平成24年4月から料金体系の統一となった。

簡易水道事業における混乱を教訓として、下水道審議会の勧告等により当初予定から一年の延長となったが、丁寧な利用者説明会の開催はもとより、自治会及び議会での公式、非公式の説明会の開催を行い、混乱なく料金統一が図られた。

このようなことから、計画最終年度において未達成となっているが、混乱なく下水道料金の統一がなされたことは、今後の来るべく料金改定を円滑に進めるうえにおいて、非常に良かったと認識している。

（ⅳ）改善に向けた取組及び今後の見通し

合併時のからの最大の課題であった14体系の料金の統一については、平成21年4月30日の下水道審議会への諮問を皮切りにスタートした。市民へのコンセンサスを得るためには紆余曲折があったが、料金統一の手続きが平成23年度中に完了し、平成24年4月から料金体系の統一化が図られた。

一方、接続率の向上は経営の安定化に資するものであるため、職員が未接続世帯を訪問し、下水道の働きや下水道に接続することにより日常生活が快適なものになることなど、具体例を挙げながら、わかりやすく説明する活動を展開行っている。特に未接続が多い高齢者世帯については、接続に向けての手続きなどについて、アドバイスを行う活動を行っている。高齢者世帯では、接続に向けての金銭面及び将来の住居維持等の不安など行政がかかわることのできない課題が多くあるが、地道な活動を行うことにより、接続率及び料金収入のアップが見込める。

影響額の算定については、当初見込み有収水量と当初計画の使用料単価から実績有収水量及び実績使用料単価の差額を影響額とした。

（ⅴ）改善方針の進捗状況

未接続世帯訪問活動を地道に実施しているが、未接続は高齢者世帯が数多く年金収入のみでは、接続に要する費用負担を賄うことは難しく、接続が進まないのが実状である。また、東日本大震災後の経済活動、観光入込客等の低迷からの脱却が不透明であり、有収水量などで震災前の状況になかなか回復しないものとなっている。しかしながら、未接続世帯訪問活動に併せて上水道課、収納課等の他課と連携し滞納対策を積極的に推進する体制整備を整えている。長年の課題であった14の料金体系の統一については、平成23度中に手続きが終了し、平成24年4月から料金体系の統一が図られ、使用料金の適正化に向けての大きな前進である。

団体名	北杜市
会計名	下水道事業特別会計

⑤ 公営企業債現在高

類型	a

（ｉ）推移表

（単位：百万円）

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度（平成23年度）	計画前年度（平成18年度）
計画目標値（A）	27,074	27,114	26,942	26,483	25,899	26,956
実績値（B）	*27,118*	26,837	26,347	25,981	25,506	
乖離値（C）（A－B）	*▲ 44*	277	595	502	393	1,450
乖離率（D）（C／A）	*-0.2%*	1.0%	2.2%	1.9%	1.5%	5.4%

（ii）要因分析

計画最終年度における未達成の要因	影響額（単位：百万円）					備考	やむを得ない事情
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度		
合計	－	－	－	－	－		
うち、やむを得ない事情	－	－	－	－	－		

（iii）実績値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

（iv）改善に向けた取組及び今後の見通し

（v）改善方針の進捗状況